

# 平成30年度 市民意識調査 反映状況

	調査項目（実施課）	反映状況
1	市民満足度調査 (企画課・広報課)	市民満足度調査の設問は、第3次静岡市総合計画に基づく本市の市政に対する市民満足度を測る項目であり、一部の設問については、総合計画の評価項目に設定されていることから、調査結果を総合計画の進捗状況把握等へ活用していく。
2	公園整備について (緑地政策課)	<p>《令和元年5月 実施》 「公園に対する民間活力導入」について、「資金、アイデアとも導入して欲しい」が54.9%、資金またはアイデアどちらかの導入を望む回答を含めると67.9%が肯定的な意見を占めたことから、令和元年度に静岡市Park-PFI公園等基本計画策定業務を実施し、公園利用実態調査や民間事業者へのサウンディング調査の結果をもとに、民間活力導入対象公園14公園を抽出した。</p> <p>《令和2年7月 実施予定》 民間活力導入対象公園14公園の中から、Park-PFI事業第1号公園として、城北公園においてカフェ等の飲食施設を設置する民間事業者の公募を開始し、都市公園の魅力向上を図って行く予定である。</p>
3	静岡版「もったいない運動」について (ごみ減量推進課)	<p>《令和元年度 実施》 リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの4Rを学習・体験できる施設を知っている市民が35.8%と低かったことから、観光情報誌、子ども情報サイト、イベント情報サイトへの掲載、静岡市内の校長会、こども園の園長会での施設紹介、隣接する施設等へのポスターの掲示を実施した。 また、認知度が一番低かった清水区では、FMラジオへ定期的に出演し、施設の紹介、施設で開催されるイベントを紹介している。</p>
4	静岡市の市民活動（自治会・町内会、NPOやボランティアなど）について (市民自治推進課)	<p>《令和元年6月～ 実施》 「ここからネット」を知っている市民は5.9%であったことから、市民活動センターにおいて使い方講座を実施した。また、CSRに関する情報充実を図るため、静岡市CSRパートナー企業への訪問を行い、「静岡市CSRパートナー企業マップ」を作成し、ここからネット上に掲載した。</p> <p>《平成31年3月 実施》 市民活動に参加したことがある市民は58.7%、参加したことがない市民は38.1%であった。また、参加したことがない市民のうち、参加したいと思う市民は38.9%であった。これらの結果を参考として、第3次市民活動促進基本計画の中間見直しの中で、成果指標(市民活動に参加したことのある人の割合、市民活動に参加したいと思う人の割合)の目標値を見直した。</p>
5	地域福祉について (福祉総務課)	<p>《平成30年9月以降 実施》 域福祉計画前期実施計画の進捗状況把握及び後期実施計画の策定に活用した。 下記1～3を地域福祉計画前期実施計画の成果指標としていたことから、調査結果に基づく課題及び対応策を関係課で共有し、計画を構成する各課所管事業へ対応策を反映するよう働きかけた。 また、同時に市社協が地域福祉活動計画後期実施計画を策定していたことから、市社協に対しても同様に働きかけた。</p> <p>1 普段生活する中で、特に悩みや不安は感じていない人の割合 2 防災訓練等の地域活動に参加する人の割合 3 ①子ども、②高齢者、③障がい者に関するボランティア活動に参加する人の割合</p>
6	多文化共生について (男女参画・多文化共生課)	<p>《令和元年5月 実施》 「静岡市国際交流協会(SAME)について知っていますか。」の問いに対し、同協会を知らない市民が73.2%と多かったことから、ホームページをリニューアルし、スマートフォンからアクセスしても見やすい内容のものにした。また、対応言語もベトナム語とやさしい日本語を追加し、7つの言葉で対応できるようにした。</p> <p>《令和元年9月以降 実施》 「多文化共生を進めていくために、市は外国人住民へ、どのような施策をすべきでしょうか。」の問いに対し、「地域社会などのルールの周知」が63.0%、「外国語による情報の提供」が41.4%、「生活相談などの生活支援」が33.1%と高かったことから、従来の国際交流協会の外国語相談に14言語対応が可能な多言語通訳タブレット端末を5台導入し、「静岡市多文化共生総合相談センター」として拡充した。</p>